

---

---

## 編集後記

研究者の研究プロセスの中で最も重要なことに、研究課題の発見と設定があると思います。魅力的な課題であれば、その解決がいかに難しくとも、日夜、頑張ることができません。海外留学の目的の一つにも、ワールドクラスの研究課題の探索があるでしょう。

ではどういう観点から研究課題を決めればいいでしょうか。研究者の中には、「純粋な知的好奇心が、基礎研究の唯一の動機付けになっていること」を強調され、「(すぐに)役に立つ研究」を敢えて避ける方もいます。2016年ノーベル医学生理学賞を受賞された大隅良典先生も「(すぐには)役に立たない研究をしよう」と述べられています。

1960年ノーベル医学生理学賞を受賞されたメダワー先生の本<sup>1)</sup>に次の記述がありました。「確信をもって言えることは、どんな年齢のどんな科学者でも、重要な発見をしたいと思うなら、重要な問題に取り組まねばならないということである。つまらない問題やばかげた問題に取り組めば、つまらない答えやばかげた答えしか出てこない。問題が「興味深い」ということだけでは充分ではない。ほとんどどんな問題も、充分深く研究されるなら興味深いものだからである」。

いずれの科学者も「重要な発見をしたい」と願っているでしょう。では、その「重要性」は誰が判断するのでしょうか。第一義的には、その分野の専門家の判断によるでし

うが、その研究の成果は社会からも祝福されるべきですから、その課題の重要性を研究者自身が、社会に分かり易く説く方が望ましいでしょう。

また、研究者のミッションには、ご自身の研究の遂行と同時に、次代を担う若者の育成があります。まだ専門の道に入る前の若者に、「その分野に重要で魅力的な課題が沢山あること」を分かり易く説くことが大切になります。社会への説明もその一環と考えれば良いのでしょうか。

さらに、「新しいことへの挑戦」自体を、社会が理解し応援する文化を醸成することが大切だと思います。「新しいことへの挑戦自体が人類にとって大切である」ことが理解され、応援される社会に変える必要があります。そのために基礎研究に携わる方々も含め、研究者の努力が必要と思います。

### 文 献

- 1) ピーター・B・メダワー著、鎮目恭夫訳「若き科学者へ」みすず書房 2016年

金井 浩

東北大学大学院工学研究科電子工学専攻  
／医工学研究科医工学専攻

---

---

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第44巻 第4号 (通巻第300号)

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円+税 (本誌購読料は会費に含まれます。)

平成29年7月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒 101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23-1

お茶の水センタービル 6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社